

THE ROTARY CLUB OF TSURUOKA



第 95 回 例会

1961年5月2日(火) 曇

次 回 例 会
 — 5月9日 —
 河村秀一郎君の送別会

出席報告 谷口君

本日の出席	会員数	42名	欠席者	早坂君 池内君 海東君 佐藤(寅)君
	出席数	36名		佐藤(昇)君 石井君
	出席率	85.71%		
前回の修正	前回出席率	76.1%	メモクッション	4/26 山形 大野君 4/26 酒田 金井(勝)君
	修正出席数	4名		4/26 上田 河村君 5/1 山形 谷口君
	確定出席率	85.71%		

司 会 小花会長 ソング R,O,T
 ゲ ス ト 田中一松氏 御橋広真君 (レコード)
 ビジター 徳岡俊次君(宇部RC)
 報告及び連絡 小花会長より

- 御誕生祝 阿部公一君(5/1) 金井勝助君(5/27)
 小花盛雄君(5/8) 記念品贈呈 パースデイソング唄う。
- 1ヶ年間出席率100% 大野武夫君、広瀬健吉君、三浦岩治郎君
 (記念バッチ贈呈は次回)

小池君より トランヂスターラジオ(ソニー)斡旋申上げる。
 イヤホン1個付で7,20円 (別にイヤホン1個300円)
 成る可く早く申込まれ度し。

出席報告 谷口君 別項
 スマイル報告 五十嵐君 別項

鶴岡ロータリー・クラブ

事務所 { 山形県鶴岡市馬場町 鶴岡商工会議所内 (TEL 123・1563)	例会日 火曜日 例会場 ひさごや (TEL 707)
---	----------------------------------

三浦君より 次年度の理事の方、例会后少時居残り度し。

幹事報告 佐藤(貞)幹事

1) 年次大会(1961年-1962年)案内

第352地区年次大会	開催日	9月8日-9月10日	場所	盛岡市
第360	"	9月23日-9月25日	"	富山市
第365	"	10月6日-10月8日	"	福井市
第368	"	10月13日-10月15日	"	鳥取市

尚、初日は前夜懇談会で登録料1,000円、あと2日は大会ですが登録料は地区内3,000円、地区外3,500円となつて居ります。是非多数御出席下さいませよう御願ひ致します。

2) 例会場、例会時間等変更

(1) 上ノ山RC、5月12日(金)の例会時間を同日午後4時に変更。

(2) 京都、京都南、京都北、京都西各クラブの例会場及び例会時間は国際大会の前後に於いて(多数の海外ロータリーアンの来訪が予想される為)夫々変更されますので、此の時期に之等のクラブ訪問予定の方は幹事へ御連絡下さい。

3) 会報到着 大館、大阪北、東京、帯広各RC

○ 4月出席率100%の方31名 おめでと。記念のハンカチ贈呈

大野君(社会奉仕委員長)より

旧市内3中学校への植樹の件 市役所土木課との連絡も済み準備完了した。贈呈の具体的な事は委員会で尚立案中である。

卓話 田中一松氏 (東京国立文化財研究所所長)

只今紹介にあづかった田中である。

今度致道博物館が新館を完成され、昨日開館式が行われた。とりあえず参列した処、今日ロータリークラブの集まりがあるから何か話せとの御命令なので、何の用意もない為即興的なものになることと思うが、30分ばかりお耳を拝借する。

なかなかよいお話を思いつかないが、一昨年日本の古美術を携えて欧州に行きノケ年ばかり向うを廻つて来たときに感じたことを2~3お話する。之は日本の政府と各国の政府の間で協定して日本の古美術を持って行つて展覧会を行つたのである。

各地でノケ月半ばかり展覧会を行い、2~3ヶ月滞在した。会を行つた処はパリ、ローマ、ロンドン、ハーグである。

パリに行くと日本の画家達が約100名位居つて毎日のようにその人々と会つて居た。そしてその人々の絵の展覧会を行うことにした。パリには古垣大使が居つて絵がお好きであり、いろいろお世話下され、パーティなんかやつて皆喜んで居つた。

私もその展覧会に招かれて行つて、日本の若い画家達の作品を観てなかなかうまいものだと思つて居た。今の処日本の芸術家はパリに行かないと洗札を受けられないような状態で、向うに行つて来ると俄に売れ出すというような状態である。しかし、向うに居ても相当有名な人もいた。此の展覧会の初めの日だつたと思うが、向うの批評家や芸術家を招いてパーティをやつた。初めのうちは向うの人はお世辞がうまいので、なかなかうまいのだと褒めて居た。

褒められてばかりいても物足りないので、大分夜も更けてからその人々をつかまえて、ほんとうの処どう感じたか、と改めて聞いてみたら、批評家のノケ人が立上つてそれならばノケお聞きし度いと言つて質問して来た。それは「我々は此の展覧会に招かれて拝見し、非常にうまいものだと思つたがしかし、此の日本の人々の作品の中に「一体日本があるだろうか。」というのである。之は日本の展覧会に来て見たが、そこに日本が不在だということである。

之は虚を衝かれた感じで、皆顔を見合せてどう答えたらよいかと迷った。成程。見渡す処沢山の油絵や日本画(今の日本画は油絵と区別がつけにくくなった)が並んでいるが、ピカソの焼直しや、マチスの2番煎じやらが多く並んでいるが、遂に日本は不在である、と云われてもやむを得ない状態である。こういうことは皮肉で云っているのではなく、向うの人は科学は別として、芸術にはその国民の特殊性というものがある可きだと考えている。パリに来ていろいろ学んで、向うのことをとり容れるのはよいが、その中からやがて日本独得のものが生れて来なければならぬというのである。之は皮肉ととれば取られるが、向うの人々にしてみれば当然な質問なのである。これに対して如何答えたか、何とも答えられなかつた。おちは後程申上げることにして、之は困つたことになつたものだと思つたが、我々が持つて行つた古美術の展覧会の方は案外に評判がよかつた。

今まで日本の浮世絵は向うに沢山あつて、日本の芸術はあのようなミニアチユアというか、小味なもののように思われていたが、今度は浮世絵は一枚も持つて行かないで、日本独得のものと考えられる襖絵、塀風絵、絵巻物などを持つて行つた。

此等は国宝、重要文化財、重要美術品になつているものの中から選んだ200点ばかりのものでその中の半数以上が国宝重要文化財であつた。

向うの人々は非常に喜んでくれた。その時のことを1つとりあげて申上げると、向うの人が非常に喜んだのは絵巻物である。

之を展げて並べて置いたら、左の方から見て之は一体、どういう意味のものかと聞かれた。之は左からではなく、右から見て行くのだという。どうして右から見るのかという。我々は右手で書いて行くから右から見るようになる。貴方々は左手で書いているから左から見るようになったのだらうという、我々も右手で書くのだが、まあその方がよいかも知れないとこんやく問答である。

此の絵巻物を見ながら、物語を説明して行くと、その中には説明のタイトルもあり、次から次と物語が展開して行くので、向うの人々は非常に喜んだ。日本には浮世絵のような小さなものしかないのかと思つていたのに、こんな面白いものがある。しかし之はどうして見るのか此のまま並べて見るのかという。いや、之は実はこんな風に巻いたのを展きながら見て行くのだという、そのように動かしながら見るというのは実に面白い。是非そうやつて見せて貰い度いという。しかしそう軽々しくやつて見せるわけに行かないので、会が終つてしまう時に見せるという約束にした。その当日、芸術家や学者が沢山やつて来たのに見せてやつたら、殊の他感心され面目を施した。そして此の絵巻物の出来た年代は何時代かという。

之は藤原時代から鎌倉時代、西暦では12~13世紀に出来たものである。12~13世紀というとルネツサンスの前、中世の暗黒時代である。まだ近代的感觉のある芸術など出てない時である。ミケランジェロもダヴィンチも出て来ない時期である。それは15世紀以後である。

日本では此のような時代にこんな素晴らしいフィルム芸術が出来て居つたのか。此れが出来た理由は何かと熱心に聞かれた。

此の説明はなかなかやつかいである。その1つとしてお寺で縁日のような時に琵琶法師の琵琶歌をやつたりして民衆を集め、次いで此のフィルムによつて仏の功德を説明して布教をやつたということ。日本ではそんな時代にそのような民衆の広場があつて、貴族や武士や町人や百姓が皆集まつて此のようなフィルムを觀賞したというふうな、そんな近代的な社会があつたのかという。それは確かにあつたのだという、向うの人々は非常に感心し驚いた。極東の小さな島国にそんな時代にそのような芸術があつたということは非常な驚異であつた。

此処までは我々も非常に愉快地に面目を施した。

しかしながらその後が問題である。此のような立派なフィルム芸術はその後日本でもどのように発展して来たか、という質問である。之にははたと困ってしまった。12~13世紀には此のように立派なものがあつたのだが、その後だんだんすたれてしまつて遂になくなつた。というしかないのである。向うの人の考えからすれば、芸術も科学も長い歴史の積重ねの^上に根が張り花を咲かすものと考えているのである。そのような立派なものをむざむざと捨ててしまつたということは民族的に考えられないことである。此のような立派な伝統を先程申上げた在仏の画家の展覧会の何処に認められるか、いうふうなことになるのである。此処が大きな問題点である。

もう1つの話題は、オランダに行つた時向うのホテルのテラスでテレビをみた。向うの人が、田中、お前の国にはテレビはあるのかという。日本ではもう殆んど各戸にあるんだという、お前の国は戦争に敗けたではないか、そんなことがあるかと云つて非常に驚いていた。

そのテレビを見ていると日本の情勢も映つていて、巷で子供がフラフープをやつているのが出ていた。之は欧州のどこかでやつていたことがあるが、日本ではそれが猛烈に流行した。そして我々がノケ年後に帰国した時にはもうフラフープの字も見当らなかつた。日本人はいろいろのものに取付くということが非常に早い乍然、之を捨てるのも亦早い。之と似たようなもう1つの話はロンドンにいる時、パリから日本の婦人がやつて来るといので会つて見たら驚色のコートを着ている。之はその当時パリで流行していたもので、其後もロンドンの英国婦人は殆んど着ていないのに、ロンドンにいる日本婦人は着ているようだつた。東京に帰つて見たら、やはり少しその緑の服を着ている人があつた。そして間もなく見られなくなつた。此のように日本人は新しいものに取付くことがうまいが、捨てるのも亦早いということを云わざるを得ない。

又1つ非常におかしなことがあつた。

パリの近代美術館から新しく出来た印象派美術館を見に行くことにした。パリは不案内なので同僚の東大教授の人が自動車を持つていたので、それを借りて若い留学生の方が運転して行つてくれた。

シャンゼリゼーの近くの処にあるその館の近くまで行つたが、なかなか車を置く処がない。駐車してよい処は既に車で一ぱいである。ぐるぐる廻つて見たが置く処がない。5時の閉館まで1時間見られると思つて来たがもう30しかなくなつたので、学生が仕方ないから先生降りて独りで見て来て下さいといふので、言葉が少し不自由なので学生に案内して貰う積りだつたが、仕方なしに独りで見て来ることにして、その学生の方はその間ぐるぐる廻つているという。漸く見終つて出て来たら、彼がす一つとやつて来て乗つて帰つた。そのことをあるフランス人に話したら今パリでは急ぎの時にはハイヤーか地下鉄などで行く。そして用がすんだら家に電話をかけて自家用車を呼ぶ。そこで始めて自家用車が役に立つのだという。

又ローマでは或る画家と親しくなつて、彼の家に夕食の招待を受けた。自分の車で迎えに来てくれたので同乗して行つたが、彼の家の近くまで行つて見るとその廻りがもう車で一ぱいで止る処がない。暫く廻つていて漸く少し離れた処に駐車して少し歩いてその家に行つた。その時彼は今ヨーロッパでは此の様に車が溢れている。貴方の国では此んなことのないように注意しなければいけないよ、と云つた。

さて、日本に帰つて見るとやはり大変である。私の処には幸にして車はあるが急ぎの用の時は都電や国電や地下鉄など電車に乗るのが一番よい。車で行つて宮城前などで引つかかるともう本一冊位積む積りでないと駄目である。ロータリーの時間的なお約束など到底出来ない。

此の様に日本人は新しいものの吸収力は非常に強い。このことは決して悪いことではない。非常に結構なことなのであるが、文化とか芸術とかその他のあらゆるものに於いての自分自体というものへの確立というものが先に出来上つていないと、又それに追いつくような1つの操作をや

らないと殆んど欧米の悪い所だけをとつてしまうということが起るということを、毎日見ているような状態である。

海外のことは皆様もよく御存じと思うが、私のノ年足らずの旅行の間にも今申上げた2~3のことが印象に残るような状態である。

以上によつてお約束の30分の責を果たしたい。

その他

他の例会行事はなる可く簡単にして、1時から30分

田中先生の御造詣深いしかもユーモアに富んだお話に充ち足りた会場の雰囲気である。

SMILEBOX

(ニコニコ)

お誕生祝 阿部公一君、小花盛雄君、金井勝助君

遅刻 小池繁治君 前回欠席 五十嵐三郎君

ノケ年皆出席 大野武夫君、三浦岩次郎君、広瀬健吉君

ノケ年皆出席者に贈呈するパッチを忘れて、小花盛雄君

会員の慶憂

お誕生祝、前記3名

ノ年間皆出席者、前記3名

本日の献立

スズキの刺身

鱒の素焼

新ワラビの味噌汁

大根漬

御飯

theClipSheet より

カナダに於けるロータリー

カナダに於ける最初のロータリークラブは、1910年ウイニツペツグに結成されました。カナダには現在344のロータリークラブがあり、その会員数は17,838名であります。

ロータリーは1910年カナダが北米合衆国以外で、ロータリーを歓迎した最初の国となつた時に国際的機構となつたのであります。